

# アカデミー通信

## 中間テストをムダにしない

5月の終わりから1ヵ月近くに渡って中学校の中間テスト対策を行ってききました。学校によっては試験が終わって結果が返ってきたところもありま

す。補習に積極的に参加した人は、弱点を克服して得点を上げてきました。

テストの得点は成績のかなり大きな割合を占めます。しかし、だからと言って今回のテストの結果が全てではありません。結果がよかつた人は油断しないように一層気を引き締め、よくなかつた人は今回の失敗をバネにして次回に活かさなくてはなりません。

**各学年の「落とし穴」**

**1年生**は初めてのテストでしたが、授業が本格的に始まってまだ2ヵ月ほどの学習内容が試験範囲でした。これから学習内容が増えるにしたがって、覚えておかなければならないことは増えていきます。今回はよかつたからと言って油断してはいけません。得点がだんだんと下がって

いってしまう人が多くいます。覚えてきたことを忘れないように、復習を続けていくことが重要となります。

**2年生**はよく「中だるみ」の時期だと言われます。学校生活に慣れ、受験まではまだ遠い時期であり、多くの人たちが勉強から遠ざかってしまいかもしれません。そんな時こそ要注意です。しかし自

分の夢や目標について考える時間をしっかりと取るにはいい時期でしょう。1、2年の時にはこの高校は厳しいだろうと思われていた生徒が、どんどん力を伸ばし、上位校に合格したケースはいくつもあります。何事も続けていけば必ず成長できます。勉強しなくなつていってしまう人たちに差をつけるチャンスでもあります。

**3年生**は受験学年に入ってから最初のテストでした。とは言え、まだ受験は先で現実味もあまりないという人が多いでしょう。もちろん、これからずっと勉強漬けということはなく、部活や学校行事に精を出し、たくさんの思い出づくりもできます。ただし、今を楽しむことばかりに熱中していると、あとという間に勉強に追いつけなくなり志望校をいくつも下げ

る結果に陥りかねません。入試が行われる2月まで、あと8ヵ月です。遊びにかまけていると、そのあとに高校生活の3年間が望み通りものにはいかなくなつてしまいます。結果が思うように出ていなければ、今までの勉強のやり方を見直す最後のチャンスになるかもしれません。今回の結果を重く受け止め、得点成績アップに食欲に意識を向けていってほしいと思います。

それでは今回のテストを終えて、何をしたらこれからの中学生活の勉強に活かせるか、以下にポイントを示します。

### 1. 間違えた問題の見直し

まずは今回のテストで間違えた問題の見直しです。見直しの具体的で一番簡単な方法は何でしょうか。もう一度解いてみることで、数学や英語、国語では、単純なミスによって間違えていたのならば解けるはずで、理科や社会などでは、覚えていなかった部分を覚えましょう。

「これは覚えていないや」とはいけません。入試や学年末テストでまた出題される可能性は十分にあり

ますし、そのときにはほかの勉強で追われているかもしれません。同じ単元を勉強して、記憶がフレッシュな今のうちにやっておくのが賢明でしょう。

### 2. 弱点の把握と克服

多くの人の場合、自分がよく間違えるクセというものがあつた。計算ミスによって間違えたのか。教科書のどこまでは出ないだろうと思つていた部分が出題されて、覚えていなかったために間違えたのか。クセは意識しなければなかなか治りません。何が悪かつたのかをしっかりと振り返りましょう。

「ここは覚えていなかった」「まだ理解できていない」という分野があれば、それは弱点分野ということになります。英語や数学であれば、積み重ねの教科であるために今後の勉強に影響しかねません。

早めにその分野をもう一度復習し、何度も練習して克服する必要がある。そして、それは今

### 3. 勉強方法の見直し

自分なりの「いつもの勉強方法」というものがある人は、その方法を一度見直してみよう。勉強方法にもいろいろあり、やり方があります。何度も用語を書いて覚える、何度も声に出して言う、覚える、チェックペンを使う、問題をとにかくたくさん解く。

「いつもの勉強方法」で結果は思うように出ていないでしょうか。出ていないらば、同じやり方を繰り返してはいけません。

やる量が不十分だったから結果が出なかつた可能性もあり、ほかのやり方を試すのも手です。

いいやり方が分からないらば、遠慮せずに先生に聞いてください。あなたにぴったりの方法を探していきます。

### 4. 目標の再確認

現在の志望校のままでもいいのだろうか、再考してみるのもいいかもしれせん。しかし、必ずしも今回の結果で志望校を変更する必要はありません。

「You can accomplish anything if you're willing to pay the price.」  
「犠牲を払う覚悟ができていならどんなことでも達成できる」  
— Vince Lombardi, American Football Coach (アメリカンフットボールコーチ ヴィンス・ロンバルディ)



## どんなことでも達成できる

し、むしろ焦ってはいけないときえ言えます。特に、志望校の偏差値を下げる際には、一度下げたものは上げにくくなるので、留意しておく必要があるでしょう。

あくまで、目標の再確認です。自分は本当は何点取りたいのか。勉強することによって成長していきたいのか。好きな教科

を生かして、どんな仕事に就きたいのか。どんな大人になりたいのか。自分の将来の夢や、どうなりたのかという理想を持つていたのか、思い出して見ましょう。遊んでいるだけでは成長はありません。

しかし、目的のために努力していけば、必ず実現できます。

勝率50%という成績を収め、負け越したことはなかつた。彼がサッカーを率いたポストシーズンでの通算成績は9勝1敗で、その間に5度のリーグチャンピオンシップ優勝を成し遂げ、そして第1回および第2回スーパーボールを連覇した。ロンバルディの人気は当時リチャード・ニクソンが1968年の大統領選挙においてロンバルディを副大統領候補にしようと思つたといわれたほど高かつた。

副大統領候補に推されるほどの人気だったので

人気が秘密はもちろんその指導力にあつたのです。冒頭の「犠牲を払う覚悟ができていならどんなことでも達成できる」という、彼の積極思考と固い信念、そしてその実行力にもあつたことと思ひます。

彼の言う、「犠牲を払う覚悟ができていならどんなことでも達成できる」はバスケットなどのスポーツに限らずどんなこと

にも適用できるでしょう。夫婦、親子、兄弟姉妹などの家族関係を始めとするあらゆる人間関係から、今問題になっている日韓、日中、日露、露・ウクライナなどの国際関係、またあらゆる仕事において、本当にどんなことでも何かことをなそうと思つたら、そのための「犠牲を払う覚悟」が必要不可欠です。

学生なら勉強や部活などもそうでしょう。就活もそうです。

そして、この世のあらゆる分野で大きな功績を残し、社会に、後世に貢献した人というのは、例外なくこの「犠牲を払う覚悟」をして、それに命をかけてきた人たちです。

それでは、自分こそまで行かなくてもいい、と言う人はどうなのでしょう。

どんな人でも、やつたらやつただけの結果はついてきます。当然、やらなければやらない結果がついてくる、これはこの世の真理です。それを知つたうえで、やらないのは本人の自由です。

このことは、だれでも例外なくみんな自分の人生で体験してきていることと思ひます。今からでもその気になりさえすれば、まだまだもう手遅れということはない、ということなのです。

嘘だと思つたら、試してみませんか？そして、冒頭の名言が真理であること

をあなたも実証してみませんか？

(6月10日付「学院長元氣の出るブログ」より)